生乳流通と需給調整

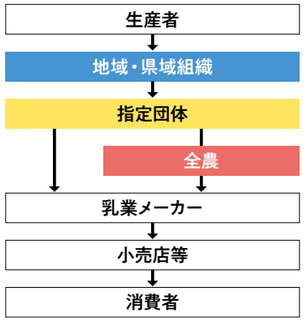
―指定生乳生産者団体の意義と機能―

日本の酪農は指定生乳生産者団体（以下、指定団体）による機能発揮の下で発展してきました。しかし、自然災害やウイルスの流行、生乳流通の多様化など、酪農を取り巻く環境は日々変化し続けています。今回は指定団体の機能について今一度振り返ることで、その重要な役割について再認識したいと思います。

生乳の特性と流通体制

乳牛は人間が消化できない牧草等からおいしく栄養たっぷりの生乳を生産してくれていますが、毎日生産され、腐敗しやすく貯蔵性がないことから、日々、乳業工場で牛乳・乳製品に処理・加工する必要があります。生産者から出荷される生乳は図1の経路で商品化され、消費者の手元に届きます。

図1 生乳の主な流通体制



指定団体の機能と変遷

この中で指定団体が果たしている機能は図2の通りです。①指定団体に結集された生乳取引による価格交渉力の強化②用途別販売による需給調整機能③集送乳合理化によるコストの低減やプール乳価による手取りの安定――を通じて多様な酪農経営を支援しています。

指定団体とは

指定団体とは、加工原料乳生産者補給金等暫定措置法により指定を受けた生乳生産者団体で、生乳販売農業協同組合連合会や酪農業協同組合連合会など、全国で10団体が指定されていました。「畜産経営の安定に関する法律等の一部を改正する法律（2017年6月に成立・公布）」により、この暫定措置法は廃止され、加工原料乳の生産者補給金制度は恒久化されました。

全農の機能

全農は指定団体の機能を補完し、需給調整の機能を発揮しています。

（1）季節的に生じる生乳生産量と消費量のギャップに対し、夏季は北海道・東北・九州などの主産地から消費地圏へ生乳を移送し、牛乳（飲用）向けを供給しています。

（2）また、飲用向けに販売できない不需要期には、生乳を本会出資の乳製品メーカー（筑波乳業／弘乳舎等）で脱脂粉乳やバターなどの乳製品へ加工して完全処理をしています。

このように指定団体と本会が緊密に連携して役割を果たすことで、生産者から出荷されたすべての生乳を廃棄しない完全販売を行い、消費者に対して安定的な牛乳・乳製品の供給を支えています。

◆◆◆

各地域の新しい取り組みについて、指定団体へのインタビューをダイジェスト版で紹介します。

ホクレン農業協同組合連合会

安全・安心な生乳を提供するために

「道内では『通信機能付き自記温度計』と『生乳トレーサビリティシステム』を活用しています（図3）。前者はすべての生産者に配備しており、バルクの冷却工程の異常をリアルタイムで生産者にお知らせすることで生乳廃棄抑制に役立っています。また、生産者は自分の携帯電話等でバルク検査結果や乳代などの情報を見ることができるようになり、利便性の向上に努めています。後者は生産者から配送工場まで生乳の流通履歴を一元管理することで、万が一事故が発生しても迅速な追跡調査が可能になっています」

東北生乳販売農業協同組合連合会

集送乳の合理化

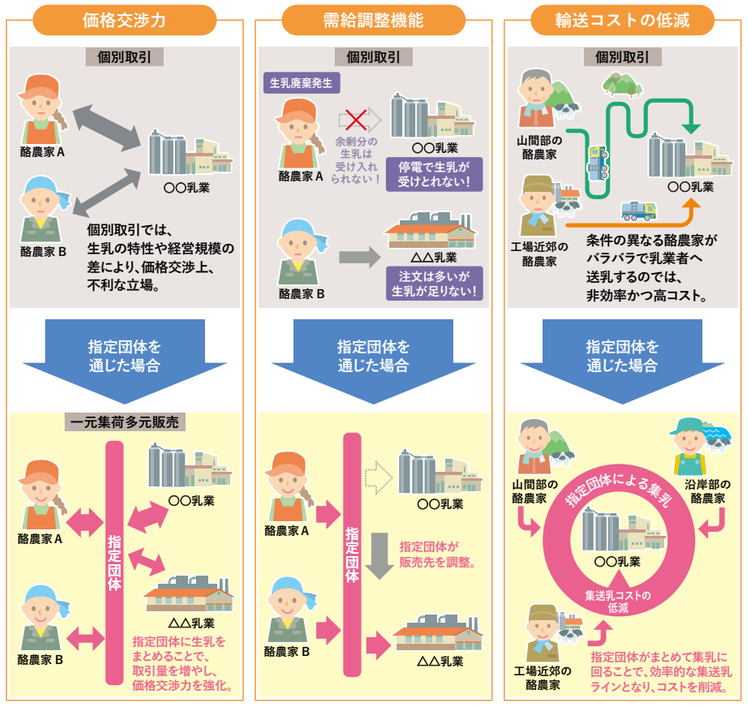
「本会を実施主体とした国庫補助事業でクーラーステーションを統廃合し、岩手支所が宮城支所のクーラーステーションに生乳を搬入する県域を越えた集送乳合理化に取り組んでいます（図4）。また、送乳に関しては全農・全農物流と協議し20t車への切り替えを進めています。近年は大手乳業様の工場再編とともに閉鎖する工場が出てきており、集送乳費用は増加傾向に進むと考えています。東北地方は消費圏ではないため、常に集送乳費用の軽減および全国連と一体となり広域での販売努力をする必要があります」

関東生乳販売農業協同組合連合会

一大消費地での消費拡大

「関東は一大消費地のため消費拡大が最重要課題です。今後はVRを使ったミニゲームを開発し、旅行雑誌『地球の歩き方』ともタイアップすることを検討しています。理解醸成の新しい企画に取り組む一方、実需の獲得も重要です。関東はインバウンド需要も多いため、『ジャパニーズ・ミルク・スタイル』というウェブサイトを作り、ポスターを域内の温泉地に貼りました。日本特有の入浴後に牛乳を飲むという文化をPRし、国産牛乳の認知度拡大と需要確保を図っています。また年末年始の特定期間に作った練乳やロングライフ牛乳をこども食堂等の施設に提供するなど、不需要期の実需確保と社会貢献にも取り組んでいます」（図5）

図2 指定団体の機能



出典：日本のミルクサプライチェーン2024（一般社団法人Jミルク）

図3 自記温度計と生乳トレーサビリティシステムの全体像

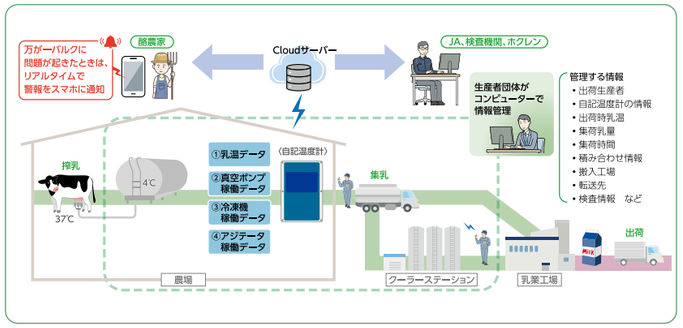
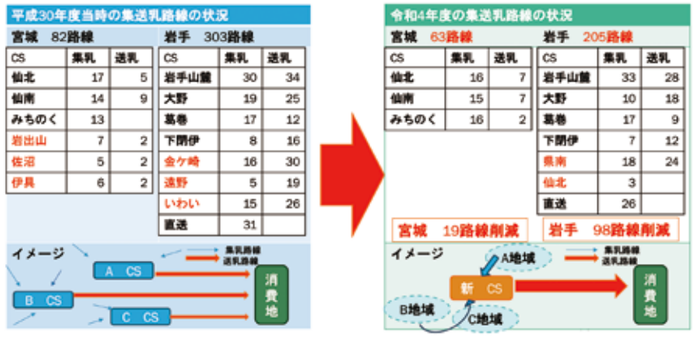


図4 集送乳の合理化



平成30年度当時の集送乳路線の状況

宮城　82路線

CS	集乳	送乳
仙北	17	5
仙南	14	9
みちのく	13	
岩出山	7	2
佐沼	5	2
伊具	6	2

岩手　303路線

CS	集乳	送乳
岩手山麓	30	34
大野	19	25
葛巻	17	12
下閉伊	8	16
金ケ崎	16	30
遠野	5	19
いわい	15	26
直送	31	

令和4年度の集送乳路線の状況

宮城　63路線

CS	集乳	送乳
仙北	16	7
仙南	15	7
みちのく	16	2

岩手　205路線

CS	集乳	送乳
岩手山麓	33	28
大野	10	18
葛巻	17	9
下閉伊	7	12
県南	18	24
仙北	3	
直送	26	

宮城　19路線削減　岩手　98路線削減

図5 消費拡大の取り組み

「牛乳って、いいな。」動画コンテスト

ウェブサイト▼

外国人向け国産牛乳PR事業
「JAPANESE MILK-STYLE」

ウェブサイト▼

各インタビュー記事
全文はこちら

ホクレン農業協同組合連合会
『酪農のなかま』No.155
2025年度秋号 P.12

東北生乳販売農業協同組合連合会
『酪農のなかま』No.154
2025年度夏号 P.13

関東生乳販売農業協同組合連合会
『酪農のなかま』No.155
2025年度秋号 P.13